

# 九条の会

2005・12・13

第 59 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 地域・分野のネットワークを大きく

### 多面的に広がる「九条の会」

さまざまな分野・地域で「九条の会」が発足し、多彩な活動を行っています。

**【天狗講九条の会】** ご案内「私たちは、戦後、米軍占領下で日本の独立と平和、民主主義、人間尊重の気風が失われることを憂えて、原爆投下 12 年目の日に、大山の中腹に『戦争反対、民族融合、平和祈願大天狗の碑』を建立しました。それ以来、毎年、浅草と大山で天狗講のつどいを開催し、そのなかで下町人間の会が生まれました。…自民党は、9 条改悪を中心とする『新憲法草案』を発表し、それに協力する動きがつかよまっています。…私たちは、「九条の会」のよびかけにこたえ、9 条改悪阻止のねがいを実現するために「下町人間・天狗講九条の会」を結成することになりました。…」よびかけ人 荒井榮一(木工職人)／磯村みどり(女優)／小生富夫(天狗講代表)／望月悦二郎(千葉県伝統工芸師)ほか。

**【あいち女性九条の会】** 11 月 27 日、結成のつどいを開き、約 90 人が出席しました。

つどいでは、憲法を守るための学習会やイベントを開くとともに、「それぞれの日常活動をつうじて 9 条の大切さをアピールする」していくことを申合わせ、代表に青木みか・名古屋女子大名誉教授、野間美喜子・弁護士、女優の山田昌さんを選びました。出席者は詩の朗読や腹話術などで交流しました。

**【住吉・今井 九条の会】** 川崎市中原区の 2 つの中学校区とその周辺の地域で活動する九条の会で、昨年 9 月に準備会をつくり、月 1 回の学習会や戦争体験を聞く会などを持ちながら、「九条の会」アピールへの賛同署名を広げ、署名者に「会」のニュースを届けてネットワークづくりを進めてきました。

そして 26 名のよびかけ人を得て、11 月 20 日に発足のつどいを開き、正式発足しました。現在の賛同署名者は約 350 名。これからは、今までの活動を継続しつつ、特に、よびかけ人で広がったいろいろな分野の人たちやいろいろな政治的立場の人たち、若者たちの中に広め、出来るところから、地域ごとのネットワークづくりにも取り組ん

でいきたいと思っています。

**【日本標準九条の会】** おもに幼・小・中学対象の学校・家庭学習教材の出版社です。組合員のみならず、組合未加盟者、会社の幹部を含めてよびかけ人を結集し、11月1日、38人の参加で「結成のつどい」をもちました。これから先、運動をどのように広げていくのかを模索しながらも、職場の圧倒的多数を九条の会アピールの支持派にしていこうと決意を固めています。

**【のむぎ九条の会】** 「地域の新しい教育力と文化の創造」の一翼を担うセンターになることを目指して1982年に創られた

<のむぎ>の中に、11月7日「のむぎ九条の会」が設立されました。構成は、今のところ賛同者約50名です。

**【横浜市・旭区内の動き】** 若葉台地域賛同者が増え、「九条の会」を団地の地域ごとに分けることを検討中。左近山地域10月28日に憲法全文の読み合わせ。賛同者100名めざし奮闘中。ひかりが丘地域10月30日発足準備会。二俣川地域北は10月に発足。南は発足準備中。2月に地域全体で映画会予定。今宿地域賛同者約50名。100名めざし、毎月定例会。(旭区「にゅうす」)

## 《リレーメッセージ》

### 「兄おとうと」の上演にあたり



作家 井上 ひさし

日本国憲法は占領軍から、正しくはアメリカから押しつけられたものである——という説があります。でも、わたしはこの説を信じない、とても卑怯な俗説だから。たしかに、いくらかは押しつけられたところもあったでしょう。けれども、戦争直後の日本人、とりわけ当時三十代後半から上の世代には、この新しい憲法は、どこか懐かしい古い子守唄のように聞こえたはず。なにしろ彼らと彼女たちは、かつて、政府のやり方に不満を持った人びとが日比谷公園で騒ぎ出して、ついには議事堂に火をつけようとしたことや、憲法を守れと叫んで内閣を倒した人びとがいたことや、日本海側のおばさんたちの「米よこせ」という血を吐くような声があつという間に全国にひろがったことや、輝やかな未来を約束された学生たちがその未来を捨てて、働く人たちと肩を組み合って「この国の仕組みを変えよ」と主張しながら獄中で息絶えて行ったこと——そういった直近の事件群を、断片としてではあれ頭のどこかに記憶していたにちがいないからです。

そういった歴史の事件群のなかでも、あの大戦争のあとの三十代後半から上の世代の日本人の記憶にまだ鮮明だったのは、東京帝大教授吉野作造の説く「政治は国民を基とする」という民本主義だったに違いない。そして吉野のこの思想を発火点として、大正デモクラシーと呼ばれる新風が和やかに、しかし粘り強く吹きつづいていた時間もあつたっけと思い出した。ですから、占領軍の役割は「日本人よ、ちょっと前の時代を思い出してごらん」と声をかけてくれただけ。いまの憲法は、そのころの日本人が過去の記憶をよびさまして掘み取ったもの。いまの憲法に当時の民間憲法草案からたくさんの事柄が流れ込んでいる事実も、わたしのこの説明を支えてくれるはずです。(the 座 51号「前口上」より)

【吉野作造評伝劇『兄おとうと』は06年1月19日～2月5日 東京新宿・紀伊國屋ホールで】